



マシュー・D・マクマレン

Matthew D. McMULLEN

ウィリアム・ウッドワード、岸本英夫らは、宗教研究者に戦後の日本に関する基礎資料を提供すべく *Contemporary Religion in Japan* を1960年に創刊した。それから短い休止期間を経て、デイヴィッド・リードが1974年にこの雑誌を復刊する際に、名前を *Japanese Journal of Religious Studies* (以下 JJRS) と改め、日本宗教研究へのアプローチについて歴史的にも方法的にもより広い範囲で捉え直そうとした。1981年に発行元が南山宗教文化研究所に移行して以来、JJRS は日本宗教研究の分野において傑出した学術誌として高く評価されてきた。

2020年度は新型コロナウイルスの影響でスケジュール変更が生じ、それにもなって出版が若干遅れたが、結果として春秋の二冊を何とか良い形で発行することができた。春の特集号のテーマは「中世日本における密教伝統」であり、僭越ながら私が編集責任者となって国際的な若手研究者から投稿を募ることとなった。秋の方は、12世紀の仏教僧団から戦後日本のキリスト教徒による人権擁護運動まで、時代もテーマも多彩な内容を含む5本の論文が収録されている。また、こちらには日本の宗教研究に関する最新の書評も収録されており、そこにはアイヌの宗教についての研究書などが含まれている。

JJRS のオンライン活動は前年から増加しており、2020年4月から2021年4月までの DOI 検索の結果は55,071件であった (DOI の説明については、Bulletin 第44号の JJRS 年次報告を参照されたい)。JSTOR は独自のデータベースで検索データを収集しているが、それによると2020年4月から2021年4月までの JJRS 論文へのアクセスは計107,124回であり、前年比で二倍となった。これらの数値には、南山宗教文化研究所と JJRS (jjrs.org) のウェブサイトから直接アクセスした件数は含まれていないだけでなく、当然のことながら、印刷物を介して読まれた件数も反映されていない。オンデマンド印刷による JJRS の販売部数は2020年に三分の二増加した。

2021年春号の編集作業が目下進められており、これが JJRS 史上もっとも大部な一冊となることは間違いない。通常版となる第48巻1号は、中世日本の宗教

に関するものからコロナ禍における祭りの実施といった現代的な問題を取り扱うものまで、7本の論文を収録する。またこの号には、宗教研究について物議を醸しそうな挑発的な書評がいくつか掲載される。特集号の方は、コロンビア大学のハルオ・シラネ氏とマイケル・コモ氏が編集責任者となり今秋に発行を予定しているが、こちらはコロンビア大学と名古屋大学が行った共同研究の集大成となる。この近況報告を書いている時点で、2022年春号の投稿枠はほぼ埋まっている。2022年秋に発行予定の特集号については、大家であるブリティッシュコロンビア大学のピーター・ノスコ氏が客員編集者となって、日本宗教研究者勢揃いで論文を頂戴している。さらに2023年は、JJRSの出版50周年記念となるため、特集号は名誉編集者のポール・スワンソン氏と私が編集責任者となって現在作業を進めている。それにともない、これまで関わってくれた編集顧問の先生方、著者たちや友人たちを招待して、JJRSの半世紀を記念する研究会を開催することができればと考えている。

Table of Contents

VOLUME 47, NO. 1

2020

ARTICLES

- 1 Editor's Introduction
Esoteric Buddhist Traditions in Medieval Japan
Matthew D. McMULLEN
- 11 Buddhist Temple Networks in Medieval Japan
Daigoji, Mt. Kōya, and the Miwa Lineage
Anna ANDREEVA
- 43 The Mountain as Mandala
Kūkai's Founding of Mt. Kōya
Ethan BUSHELLE
- 85 The Doctrinal Origins of Embryology in the Shingon School
KAMEYAMA Takahiko
- 103 "Deviant Teachings"
The Tachikawa Lineage as a Moving Concept in Japanese Buddhism
Gaétan RAPPO
- 135 *Nenbutsu* Orthodoxies in Medieval Japan
Aaron P. PROFFITT

- 161 The Making of an Esoteric Deity
Sannō Discourse in the *Keiran shūyōshū*
Yeonjoo PARK

REVIEWS

- 177 Gaétan Rappo, *Rhétoriques de l'hérésie dans le Japon médiéval et moderne. Le moine Monkan (1278–1357) et sa réputation posthume*
Steven TRENSON
- 183 Anna Andreeva, *Assembling Shinto: Buddhist Approaches to Kami Worship in Medieval Japan* Or PORATH
- 187 Contributors

VOLUME 47, NO. 2

2020

ARTICLES

- 189 Myōun and the Heike
Monastic Influence in Twelfth-Century Japan
Mikael S. ADOLPHSON
- 225 The Shintoization of Mazu in Tokugawa Japan
Wai-ming NG
- 247 Immanent Power and Empirical Religiosity
Conversion of the Daimyo of Kyushu, 1560–1580
Alan STRATHERN
- 279 Historical Counter-Narratives
Japanese Christians' Advocacy for South Korean Atomic Bomb Victims
Ágota DURÓ
- 305 Kanda Sōtei
The Shogun's Sacred Painters and their Realm of Influence
Tomoë I. M. STEINECK

REVIEW ARTICLE

- 341 The *Inaw* of Ishikawa
Ainu Religious Implements in Japanese Shrines and Temples
Avery MORROW

REVIEWS

- 353 James C. Dobbins, *Behold the Buddha: Religious Meanings of Japanese Buddhist Icons* Jesse R. LEFEBVRE
- 358 Jessica Starling, *Guardians of the Buddha's Home: Domestic Religion in Contemporary Jōdo Shinshū* Matthew MITCHELL

363 Takashi Miura, *Agents of World Renewal:
The Rise of Yonaoshi Gods in Japan*

April D. HUGHES

367 Contributors